

2010年12月 5日 東日本区1998~2011 ヒストリアン 吉田 明弘

チャリティーラン in 御殿場

熱海YMCAの主催する「第2回YMCAチャリティーラン in 御殿場」が、11月20日、御殿場・東山荘で、快晴、無風の絶好のコンディションに恵まれて行われました。

富士山部11クラブのメンバーと東山荘のスタッフにより運営されました。

開会式は、午前10時から東山荘のスタッフ佐久間真人さんの進行で始まり、NPO法人熱海YMCA理事長・竹内敏朗さん(熱海グローリー)の「みんなが主役となっていただきたい」との開会挨拶。若林洋平・御殿場市長の挨拶も「行政の届かないところ、やらなくてはならないのに出来ていないことを、心をこめてやっていただくことに感謝します。怪我をしないように」と極めて親しみあるものでした。鍋田市朗さん(富士宮)の競技規則と表彰規定の説明の後、全員でウォーミングアップ。

競技は、5人1組のリレー競技で、東山荘の敷地と一部市道の約1.5kmのコースを一周してタスキを渡します。事前に予想タイムを申告して、実走タイムとの差の少ない順に順位が決まるというルールです。

10時30分、21チームの第1走者が一斉にスタート。富士山部の各クラブからも13チームが参加しました。コースは、平坦なところが少ないのですが、雪に輝く富士山を眺めることもできます。要所には、ワイズメンが各クラブののぼりを立てて、コースを示します。

静岡クラブの第1走者の永田玄道さんが力走。

バトンタッチ寸前に、小学生チームの第2走者に抜かれるなど、熱戦が繰り広げられました。急に出場出来なくなった人の代走を東京から見物に参加したワイズメンが務めるなど、終始、和やかでした。

競技を終えての昼食は、各チームが思い思いに芝生広場で輪になって楽しみました。東山荘のレストランのカレーライス200円、豚汁100円のサービスもありました。

表彰式では、熱海グローリークラブの優勝をはじめ、各種の表彰があつて、みんなニコニコ。ラッフル・お楽しみ抽選会は、ホテル宿泊券、自転車、伊勢海老などの景品に歓声があがりました。

収益160万円の目録が、長谷川等・実行委員長(沼津)から、竹内熱海YMCA理事長に贈呈されました。

地元の池谷晴一県議、熱海クラブの橋本一実県議が壇上で紹介され、池谷さんから祝いの言葉があり、長谷川実行委員長の簡潔な挨拶で、午後2時に閉会しました。

今年は全国16YMCAで実施

YMCAチャリティーランは、1987年の東京で行われたのを皮切りに、全国で展開されるようになり、今年は、次のYMCAで開催、また予定されています。

北海道、仙台、とちぎ、埼玉、千葉、東京、横浜、熱海、山梨、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡、鹿児島

熊本YMCAの場合もほとんど同じ形式ですが、

他の団体が主宰して、事務局を担当して YMCA フィランソロピー 駅伝大会として実施されています。山梨の場合は、主催者にワイズメンズクラブと地元の新聞社・放送局も加わっています。山梨は、名称に YMCA がついていません。

チャリティーランは、タレントのチャック・ウィルソンさんから提案され、日本 YMCA 国際賛助会 (YMCA Foreign Community Supporting Committee) のプログラムとして始まりました。最初は日本 YMCA 同盟が事務局を務めました。

「チャリティー」の由縁は、参加する走者、またはその支援者が参加費を納め、それが寄付となるからです。アメリカでは、子どもが挑戦する競技に親が参加費をもつというかたちでチャリティーが行われているそうです。日本の場合は、馴染みのある駅伝という形で提案されました。

チャリティーランの参加費は、YMCA によって違います。東京 YMCA の場合は、1 チーム 10 万円です。中学生以下は低く設定しているところもあります。

参加費に寄付金、当日のラッフル券、売店売上などを加えた収益金の 80% が主催した YMCA の障がい児のキャンプなどに用いられ、20% は日本 YMCA 同盟を通じて、他の YMCA の障がい児のプログラムのために配分されます。

2 年目からは、東京 YMCA が主催することになりました。ワイズメンズクラブ国際協会の 75 周年を迎える 1997 年には、世界各地で『地域へのプレゼントイベント』を行おうという国際協会の呼びかけに応じて、日本区は、YMCA と協力して、全国での展開を計画しました。1994 年から名古屋、1995 年から仙台、大阪、広島、1996 年から北海道で始まり、全国に広がっています。

出場チームを募るのには、どこも苦労しています。山梨のようにワイズメンが企業を訪問して、参加を募っているところもあります。外資系企業は、社会貢献として、会社の運動会のような感じで楽しみながら参加していますが、日本の多くの企業の場合は、まだこれからというところです。

現在、全国の冠スポンサーは、三菱商事です。

熱海 YMCA らしさ

第 1 回の熱海 YMCA チャリティーランは、静岡県草薙競技場で行いました。今回は時間をかけての協議の末、東山荘で行うことに落ち着いたそうです。会場の都合で、この日に決まったため、1 年前から、市内の小学生ドッジボール大会を決めていた伊東クラブは、代表しか参加できませんでした。このドッジボール大会は 600 人の選手が集まり、見物も含めて、約 1,000 食のカレーライスを伊東クラブは作るそうです。

伊東クラブに限らず、熱海クラブの市内小学生のドッジボール大会、下田クラブのイカダ漕ぎレース、三島クラブのウォーキング、富士クラブの全国高校女子サッカー大会など、スポーツ大会の主催を経験してきたクラブが多いのです。

1 クラブでも、チャリティーランを開催することは容易でしょう。その 11 クラブが、熱海 YMCA の名のもとに、東山荘の YMCA スタッフと協力しながら、運営することに大きな意義があると思います。

井堀節男さん (熱海グローリー) が「熱海 YMCA にスタッフはいない。私たちワイズメン一人ひとりがスタッフなんだ」と言うのとおりです。ふだんは、YMCA スタッフと接することのない富士山部のメンバーが、この大会を通じて、共に働いたことは大きなことだと思います。

また、東山荘にもたらしたものもありました。日本 YMCA 同盟が運営する東山荘は、1915 年に夏季学校常設館として献堂されましたが、同盟の性格から、各地にある YMCA とは異なり、地域に密着したプログラムはあまりありません。今回の地元の参加者からも、「青年会議所時代に一度来ただけ」「夏に東京の金持ちが来るところ」という声がありました。1941 年に設けられた隣接する秩父宮別邸 (2005 年から記念公園として公開) と同様、地元民の足を踏み入れるところではなく、何か分かりにくいところだったようです。

チャリティーランを通して、地域との良好な関係が進むでしょう。

地元の御殿場クラブは、御殿場市の社会福祉関係の協会、奉仕クラブ、青少年団体などの後援をとるなど、当日は、朝7時から設備、コース整備を始めていました。

今回のチャリティーランは、YMCA 施設の東山荘でしたから、米国映画のアーリーアメリカンの町のカーニバルの映画のシーンのような、なにか家族的な、包みこむような心地よい雰囲気がありました。

北海道には北海道の、鹿児島には鹿児島のチャリティーランがあるのでしょう。熱海 YMCA のチャリティーランは、地元密着でした。インパクトが求められる大都市でのチャリティーランとは一味違い、また別の役割があると感じました。

第1回の際は、熱海 YMCA に残った収益の中から、各クラブが、地域の障がい者プログラムに使うために5万円ずつ配分しました。湯河原クラブの場合は、地元にある施設にクリスマスプレゼントとして贈りました。その施設は、その年、市からの補助が減額されていたところでした。施設の代表がお礼に例会に見え、「神様からのプレゼントと思えた」と涙を流されたそうです。

今回は、特に東山荘で研修（STEP ）中だった日本各地の YMCA の中堅スタッフも参加しました。この交流もお互いに認識を新たにする部分もあって有意義でした。

STEP 研修とワイズ

STEP とは、YMCA の中堅スタッフの研修です。スタッフは、各地の YMCA ごとに採用されますが、ある程度実務経験を積んだ後、日本 YMCA 同盟に論文を提出して、審査によって、主事に認定されます。いわば、ご当地ブランドが、全国に通用するナショナルブランドになるわけです。この論文提出の条件のひとつになるのが、STEP を終えることなのです。（認証主事になるための条件には、クリスチャニティー、主事論文

提出、主事資格審査委員会での口頭試問などが課せられています。）

研修は、毎年秋、主に東山荘に合宿して、75日間行われ、キリスト教理解、YMCA 理解、マネージメント、YMCA の歴史、青少年理解など20数もの課題について講義や現場研修があります。ワイズ理解のための3時間も組み込まれています。（現在一部の期間は東京の在日本韓国 YMCA でも移動して実施されています）

今年の参加者は、北海道、茨城、東京、横浜（2人）名古屋、神戸、広島（2人）の9人でした。

問題は、YMCA の地域格差です。中小規模の YMCA では、研修費用（1人約55万円）と、75日間、働き盛りのスタッフが現場を離れることが負担になり、研修に送ることが難しいのです。このため、ワイズメンズクラブが一部費用を応援しています。東日本区の場合、2008 2009年度（清水弘一区理事・仙台青葉城）から、CS・Y サ・ASF 資金から支出することを決めました。

ワイズ事業「ASF」

1950年のメキシコ国際大会で、ポール・W・アレキサンダー（Paul William Alexander）名誉国際会長の長年の貢献に感謝を表すために、彼の肖像画を贈ることが決まりました。そのための元国際会長による委員会が設けられ、募金を始めました。ところが、これを知ったアレキサンダーは、そのようなことに金を使わず、もっと増やして意義のあることに使用してはと示唆しました。

委員会は、この計画を断念し、1951年、イーストランシングの国際大会で、アレキサンダーにはポートレート写真を贈呈し、残りの資金で、スプリング・フィールドとジョージ・ウィリアムズ両カレッジで YMCA 主事を目指して勉学中の学生に奨学金を贈ることを決議しました。

1954年、ポートレート写真は贈呈され、ポール・ウィリアム・アレキサンダーの名を付した Paul William Alexander Fund（PWASF）が設置されました。1956年に最初の受給生が生まれ

ました。その後、国際協会 5 大事業のひとつとなり、これは各国に広がりました。

日本区では、1963 年にアジア地域副会長・殖栗文夫さん（東京むかで）が提案し、彼が初代 PWASF 事業主任となり、翌年第 1 号の奨学生が決まりました。事業主任の仕事は、基金を集めると同時に、将来、主事になる学生を発掘することでした。以後、1979 年までの 16 年間に 24 人が、1986 年までに 11 人の奨学生がありました。『HISTORY OF YSDOM (1972 年度版)』には、1966 1971 年度 PWASF 国際コーディネーターのウィリアム・プレッチャー (William Pletcher) は、1968 1969 年度の報告で「日本では 17 人のファンド受給者が YMCA で働いている」と記されています。

その後、1981 年から ASF と改称、日本区では 1984-1985 年度（野村秋博区理事・名古屋東海）から YMCA サービス事業に吸収された形となり、現在の東日本区では、地域奉仕事業主任が担当しています。

かつて会員中心の運動体だった YMCA に就職することは報いを求めない覚悟が求められた時代もありました。やがて、学校事業の割合が高くなると、就職を希望する学生も増え、一方では YMCA 側の求人基準が変わってくると奨学金制度自体の意味が薄れ、YMCA からは、若手主事の研修に用いたいという希望が出てきました。だんだん主事の海外研修、東南アジアからの主事研修の受け入れ費用支援がウエイトを増し、1985

1986 年をもって奨学生はいなくなり、若手主事の研修に切り替りました。

チャリティーランの前夜祭

第 2 回 YMCA チャリティーラン in 御殿場では、東山荘で行われたこともあって、体育館を会場として前夜祭がありました。

ここでは、マグロの解体ショーもあり盛り上がりしました。沼津クラブが職人 3 人ともに手配したそうです。屋外では、井上暉英さん（富士）提供

の宮崎牛のももの丸焼でワイワイ。

研修生も参加して、自己紹介とともに各地でのチャリティーランの様子を語ってくれました。

あとがき

チャリティーランの参加チームは、さまざまです。空手道場の小学生、郵便局・信用金庫の職員、障がい児、ワイズメンなどでした。体力、年齢、性別に差がある中で、どういうルールにすれば、皆が平等に優勝を狙えるかが問題でした。今回は、「ニュー・ナベ・タイムレース法」というルールが生み出されました。チームが事前に自己申告する宣言タイムと実行タイムとの差にハンディキャップなどを加えた複雑な方式でした。

その前の週に熱海 YMCA が主催した中学生英語スピーチコンテストでも、問題がありました。優勝したのは、帰国子女でした。発音、イントネーションで、まったく他の子を寄せつけなかったそうです。「良いものは良いのだけど・・・」「同じ日本人なんだけど・・・」「子どもたちのやる気を育てるのも目的だから・・・」と熱海 YMCA は悩んでいます。

熱海クラブ、熱海グローリークラブが開いている小学生ドッジボール大会でも同じようなことがあったようです。大会を知った市外のクラブチームから申し込みがありました。当日、クラブチームが、揃いのユニフォームを着ているのに驚きました。試合が始まると、さっと守備陣形をとり、上手な子が 4 人前に出て、他の子はその後に隠れます。攻撃になると、球回しが決まっっていて、狙いを定めて十字砲火を浴びせます。あまりの見事さに「これ、ドッジボール」と、目を見張りました。あっという間に勝ち進んで、優勝旗をさらっていきました。後で聞くとクラブチームの二軍だったそうです。「やっぱり熱海市のチームに勝たせたいけど、参加を断るのも了見が狭いみたいだし・・・」「熱海の子が外部の刺激を受けて、頑張ってくれれば、一番いいんだけど・・・」。

楽しさのある悩みです。